

専門ゼミ (3年次前・後期)

【ゼミのテーマ】 グローバル化と観光(基礎編)～「観光」という切り口(「観光人類学・観光社会学・国際観光学」)からグローバル化とローカル化のせめぎあう現代世界を読み解き、異文化を理解し、自文化を紹介する方法を模索する。

【ゼミの内容】 国際観光客は急速の増加し、国際観光業は世界最大規模で最も成長率の高い産業であるが、多くの学問が最近まで観光を本格的な研究対象として取り上げてこなかった。

しかし、グローバル化の急速な展開にともなって近年、これが大きく様変わりし始めている。たとえば、R.コーエン・P.ケネディ著『グローバル・ソシオロジー』(平凡社)では「観光社会学」が、江淵一公・松園万亀雄編著『新訂・文化人類学』(放送大学テキスト)や江淵一公・小野澤正喜・山下晋司編著『文化人類学研究』(放送大学大学院テキスト)では「観光人類学」がその一章として組み込まれている。

従来は実務家中心であった観光研究自体が「社会科学からの学際的研究」(岡本伸之)としての性質を強めつつある。2005年には須藤廣・遠藤英樹『観光社会学～ツーリズム研究の冒険的試み』が、2006年には安村克己『観光まちづくりの力学～観光と地域の社会学的研究』が刊行された。

そこで本ゼミでは、山下晋司編『観光人類学』(新曜社)を輪読することから観光の勉強を始める。この本は、地域としてはバリ、ハワイ、ラップランド、タイ、パプアニューギニア、フィジー、中国、日本などが、テーマとしては、観光の仕組み、観光イメージ、持続可能な観光、エコツーリズム、観光とメディア、民話観光などが取り上げられ、ディズニーランドやサンタクロースが観光との関連で論じられているなど、とりつき易い内容である。

なお、ゼミでは「世界遺産」をはじめとする観光関連のDVDをできる限りたくさん見る機会を設ける。

観光研究は国際関係、国際協力・交流、地域研究が相互に補完的に切り結ぶ場であるので、三つのコースのいずれを選択する学生も受け入れる。

【ゼミの進め方】 テキストの輪読を行う。毎回その日に読む箇所の「要約」(内容をできるだけ自分のことばで言い換えたサブノート)を全員が提出する。ゼミのメンバーを三つのグループに分け、順番に司会、報告、予定討論を担当することによって、「読み」、「書き」、「話す」能力(報告書作成・プレゼンテーション・ディスカッションの能力)を総合的に開発する。3年次の最後には卒業論文のテーマを決め、文献検索を終えて、卒論作成が開始出来るように指導する。なお、卒論のテーマは指導教授と相談のうえ決めるが、執筆者本人の自由な意志を最大限、尊重する。

【その他】 全員がきっちり準備をして出席し、議論をするゼミである。自分から勉強・研究しようという意志をもった学生の参加を希望する。勉強や研究はやれば結構楽しいことを実感できるゼミでありたい。 選考基準としては学ぶ意欲・熱意を重視する。